



2024年3月5日

各位

会社名 株式会社RS Technologies
代表者名 代表取締役社長 方 永義
コード番号 3445 東証プライム市場
問合せ先 経営企画室長 田淵 勝也
電話 03-5709-7685

2023年12月期 決算説明会動画及び書き起こし公開のお知らせ

当社は、2024年2月27日に開催しました2023年12月期決算説明会に関するアーカイブ動画及び書き起こしを下記のとおり公開いたしました。

本説明会では、当社代表取締役社長方永義から、2023年12月期決算概要、2024年12月期業績予想及び中期経営計画等についてご説明しておりますので、株主・投資家の皆さまにおかれましては、ぜひご覧いただけますと幸いです。

記

1. 決算説明会概要

開催日時：2024年2月27日

登壇者：代表取締役社長 方 永義

取締役製造部長 遠藤 智

財務経理部長 齋藤 進

2. 資料格納先

アーカイブ動画

https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec_202402_bW2e

決算説明資料

<https://contents.xj->

<storage.jp/xcontents/AS02916/df4eca4f/4aaa/4675/bb80/568e33930d20/14012024>

<0213535037.pdf>

以上

2023年12月期

決算説明資料



株式会社 RS Technologies プライム市場 3445
2024年2月13日

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

方永義:みなさま、こんにちは。本日は当社の2023年12月期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。代表取締役社長の方永義です。それでは、取締役の遠藤よりご説明します。よろしくお願いいたします。

遠藤智:おはようございます。
RSテクノロジーズ取締役の遠藤智と申します。
本日は、当社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

それでは さっそく、説明を始めたいと思います。

目次

01	会社概要	P.03
02	決算概要	P.13
03	中期経営計画 (24年~26年)	P.20
04	新規事業 (LEシステム)	P.29
05	Appendix	P.34

本日は、会社概要、2023年12月期の決算概要、中期経営計画の順にご説明します。説明資料の最後に参考データを記載していますので、お時間のある時にご覧ください。



会社概要



01

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 3

それでは当社の概要について、ご紹介します。

数字で分かるRS Technologies

グローバルシェア
(再生ウェーハ)

世界 No.1 33%^{※1}

売上高営業利益率
(連結ベース)

22.9%

グループ上場市場
(再生ウェーハ事業、プライムウェーハ事業)

2カ国^{※2}

■ 企業価値評価

成長性・収益性に加えて
潤沢な資産を保有している一方で、
市場の評価とは乖離が大きい

約1,300億円
程度のギャップ



時価総額
約805億円^{※4}



①ネットキャッシュ
約640億円

②上海証券取引所科創板
上場子会社株式価値
(当社保有分)

約1,472億円^{※3}

①+②
約2,112億円

※1 SEMデータに基づき世界社にて統計
※2 東京証券取引所プライム市場、上海証券取引所科創板の2カ国に上場
※3 2023年12月期平均時価総額約3,680億円のうち、当社保有分(40%)に相当する金額
※4 2023年12月期平均時価総額

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

4

当社概要についてです。こちらのスライドでは「数字で分かるRS Technologies」として、当社のポイントを3つに絞ってご紹介しています。

1つ目に、当社の再生ウェーハ事業のグローバルシェアは33パーセントで、業界第1位を維持しています。

2つ目に、連結ベースでの売上高営業利益率22.9パーセントです。再生ウェーハ事業の営業利益率は約40パーセントとなっていますが、連結ベースでも高利益体質への基盤作りを行っています。

3つ目に、グループ上場市場が2ヶ国あります。当社の東証プライム市場への上場に加えて、子会社の有研半導体材料有限公司(GRITEK)が中国の上海証券取引所科創板市場に上場しています。

子会社が上海市場に上場している日本の上場企業は非常に珍しく、このような実績が国内外への信頼獲得につながると考えています。

スライド下部の企業価値評価についてです。

当社の時価総額は2023年度平均で約805億円でした。ネットキャッシュ約640億円に加えて、

上海市場に上場している子会社GRITEKの株式価値における当社保有分約1,472億円の、合計2,112億円を有していることを加味すると、現在の時価総額と保有している資産との間にギャップがあります。

つまり、当社にはまだ評価されていない価値があると考えています。

このギャップを埋めるべく、認知度拡大や、投資家のみなさまに当社事業をしっかりとご理解いただけるよう、事業活動やIR活動にも努めていきたいと思っています。

会社概要



- 再生ウェーハ事業で世界市場シェア33%のトップ企業※1
- 中国中央企業※2との合併事業でプライムウェーハ事業に進出
- M&Aによりシナジーの期待できる周辺事業領域に事業を拡大

社名	株式会社RS Technologies
設立	2010年12月10日
経営理念	「地球環境を大切に、世界の人々に信頼され、常に創造し挑戦する。」
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ シリコンウェーハの再生加工・販売 ・ プライムウェーハの製造販売 ・ 半導体製造装置向け消耗部材の製造・販売 ・ 超音波映像装置の販売 ・ 電子部品の販売 等
本社所在地	東京都品川区大井1-47-1 NTビル
製造拠点	宮城県、茨城県、台湾(台南)、中国(徳州)
資本金	5,643百万円(2023年12月末時点)
代表取締役	方永義

主 な 連結子会社

有研半導体硅材料股份公司 GRITEK (北京)	登録資本 10億人民幣 出資比率 40.09%※3 上場 上海証券取引所 科创板
艾爾斯半導体股份有限公司 (台湾)	資本金 NT \$300 million 出資比率 100%
株式会社 DG Technologies	資本金 100百万円 出資比率 100%
株式会社 ユニオンエレクトロニクスソリューション	資本金 27百万円 出資比率 100%

※1 SEMIデータに基づき弊社にて推計
 ※2 国有企業のうち、中央政府の管理監督を受ける企業
 ※3 2023年12月末現在

当社は2010年12月に設立し、宮城県大崎市の工場にて再生ウェーハ事業を開始しました。

また、2018年1月には中国国有の研究機関との合併事業として、プライムウェーハ事業に進出しました。

主な連結子会社は4社で、主にM&Aによるシナジーが期待できる周辺領域に事業を拡大してきました。

沿革



- ・ 設立以来、再生ウェーハ事業における世界トップ企業として確固たる地位を確立
2018年に中国の大手プライムウェーハメーカーを連結子会社化したことで、ウェーハ総合メーカーに

2010年 12月	ウェーハ再生事項を主たる事業として株式会社RS Technologiesを設立	再生
2014年 2月	台湾に艾爾斯半導體股份有限公司(連結子会社)を設立	再生
2015年 3月	東京証券取引所マザーズに株式を上場	
2016年 9月	東京証券取引所市場第一部(東証一部)へ市場変更	
2018年 1月	中国プライムウェーハ製造メーカーである有研半導体材料有限公司(GRITEK)を連結子会社化	プライム
2018年 5月	株式会社ユニオンエレクトロニクスソリューションの100%株式を取得(日立パワーデバイスの特約店)	半・部
2018年 8月	山東有研半導体材料有限公司(GRITEKの連結子会社。山東GRITEK)を設立	プライム
2019年 1月	株式会社DG Technologies(DG)の100%株式を取得	半・部
2020年 2月	上海悠年半導体有限公司(上海ユニオン)を設立	半・部
2022年 4月	東証一部からプライム市場へ移行、指名報酬委員会(任意)を設置	
2022年 11月	GRITEKが上海証券取引所科创板市場へ上場	プライム
2023年 12月	「バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)」用の電解液製造事業を承継	エネルギー

再生	再生ウェーハ事業関連
プライム	プライムウェーハ事業関連
半・部	半導体関連装置・部材等事業関連
エネルギー	再生エネルギー関連

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 6

沿革をご紹介します。当社は設立から5年後の2015年3月に東証マザーズ市場へ上場を果たし、翌年9月には東証第一部へ市場変更しました。2022年11月には、中国にてプライムウェーハ事業を行う連結子会社のGRITEKが、上海証券取引所科创板市場に上場しました。

2023年12月には、バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)用の電解液製造事業を承継し、再生可能エネルギー事業にも参入しました。

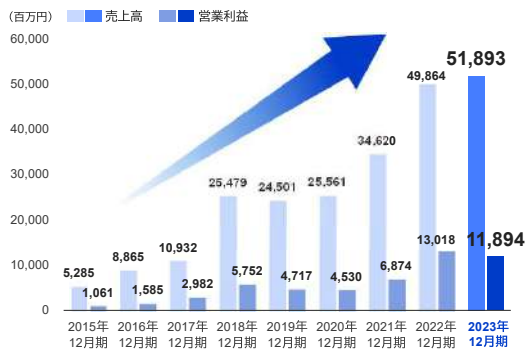
今後もM&A戦略を中心に、グローバルに事業拡大を進めていきます。

現在のRS Technologies

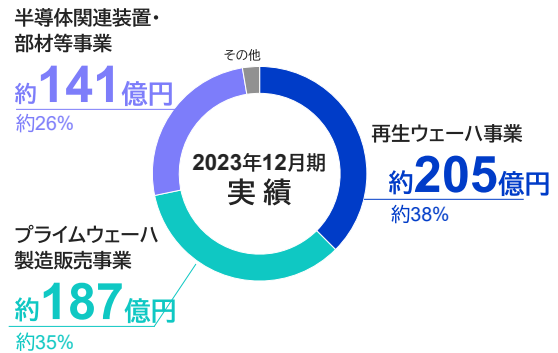


- 再生ウェーハ事業 + プライムウェーハ事業の総合ウェーハメーカー
- 半導体関連装置・部材等事業など事業領域を拡大
- 再生ウェーハ事業はグローバルシェアNo1、プライムウェーハ事業では中国国内向けを中心に事業を展開

連結売上高および営業利益



セグメント別売上高



COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

7

現在のRS Technologiesの事業構成についてご紹介します。
セグメントの売上構成は、再生ウェーハ事業が約38パーセント、プライムウェーハ事業が約35パーセント、半導体関連装置・部材等事業が約26パーセントとなっています。

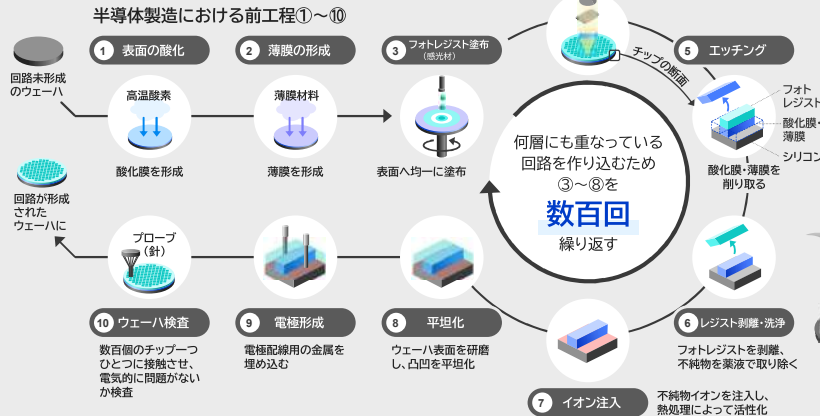
当期の連結売上高は前年比プラス4.1パーセントの518億9,300万円となりました。祖業である再生ウェーハ事業を中心に、堅調な成長ができていると考えています。

事業内容 (1/5 再生ウェーハとは)



- 再生ウェーハとは、主に半導体製造において使用されるテストウェーハを再生加工したウェーハのこと
- 再生したウェーハは繰り返し使用されるが、当社独自技術では、10回以上のリサイクルも可能であり、環境負荷軽減に加え、半導体メーカーのコストダウンにも貢献

■ 半導体メーカー



■ 当社

ほぼ全ての工程で使用される

- モニターウェーハ (用途: プロセスや加工精度の評価)
- ダミーウェーハ (用途: 精密加工の安定性向上)

当社はそれらを再生し、半導体メーカーへお戻ししている

再生加工 (再利用できる状態にクリーニング)

半導体製造のためには、
ウェーハの再生が必要不可欠

使用済みのウェーハを回収

出荷

当社の主軸である再生ウェーハ事業についてご説明します。再生ウェーハとは、主に半導体製造において使用されるテストウェーハを再生加工したウェーハのことです。

テストウェーハは、プロセスや加工精度の評価、精密加工の安定性向上など、ほぼすべての工程で使用されており、半導体製造には不可欠なものです。

当社の再生ウェーハ事業は、このテストウェーハが繰り返し使用できるよう再生加工を行う事業です。

テストウェーハをリサイクルすることは環境負荷軽減や、お客さまである半導体メーカーのコスト削減にも貢献しています。

当社独自の再生技術は、他社と比較しても再生回数が多いことが、当社の優位性の1つであると考えています。

事業内容 (2/5 再生ウェーハ事業について)



- 再生ウェーハ業界におけるグローバルサプライヤーとして、継続的な業績拡大を実現

市場の特徴

半導体業界の継続的な成長

世界の半導体市場規模は、2023年から2030年にかけてCAGR:約10%で成長し、2030年には**1兆米ドル**に達すると予測されている※1

※1出所:SEMIジャパン/Semiconductor Market Forecast



景気変動に強い

- 製造装置の立上げ等多用途にりよされる
 - 不況時に顧客のコスト意識が高まると、再生ウェーハ投入量が増える
- シリコンサイクルの影響を受けにくい

今後も継続的な成長が見込める

実績

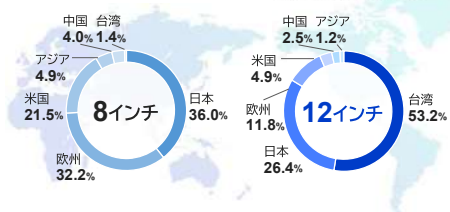
業績推移

- 製造拠点の拡大等、積極的な生産能力の拡充によって (百万円) 大幅な成長を実現



地域別出荷構成

- 日本・台湾・欧州・北米と幅広い出荷先を確保
- 地域分散、業種分散によってリスクヘッジも図っている



COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

9

次は再生ウェーハ市場についてです。

半導体市場は年間平均約10%で成長し、2030年には一兆米ドルに達すると予測されており、

再生ウェーハに関しても今後も継続した成長が見込める事業であると考えております。

事実当社の2013年からの再生ウェーハ事業の年間平均成長率は18.3%と順調に伸長しております。

再生ウェーハ市場の特徴の1つとして、経済状況に左右されない安定した事業であるということがございます。

不況の際には、新品テストウェーハより安価な再生ウェーハの投入数が増加するため、当社にとっては追い風となります。

また、たとえ不況であっても工場が閉鎖しない限り、ラインの稼働はとまらないためテストウェーハの需要はなくなることはありません。

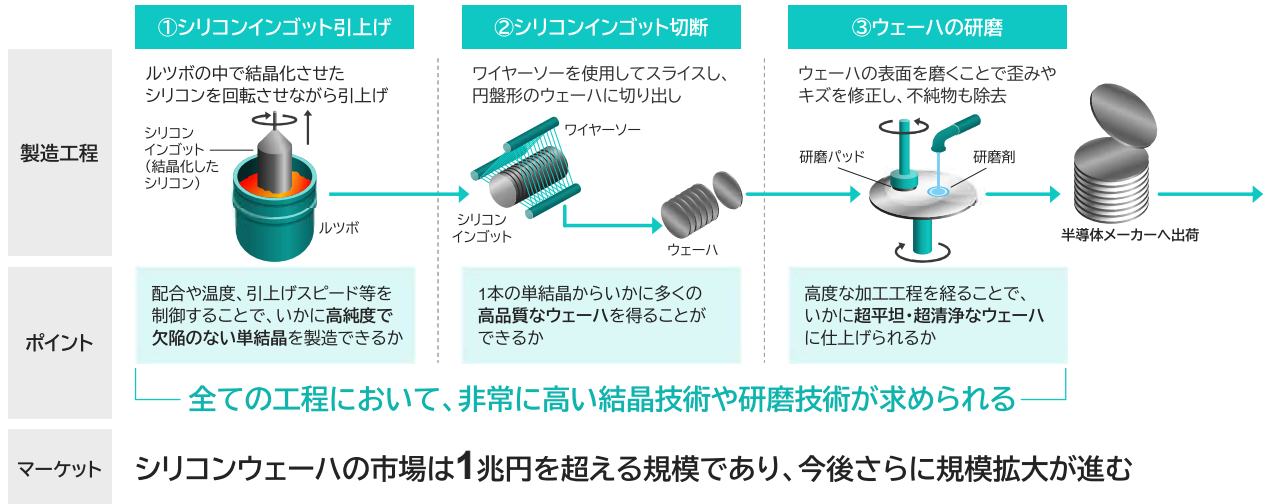
半導体の製造拠点の新設時には、装置の立ち上げ用途としてテストウェーハが多用され、

再生ウェーハの需要も増加するので、当社にとってはプラス要因となります。

事業内容 (3/5 プライムウェーハとは)



- プライムウェーハとは、半導体の基板材料であるシリコンウェーハのこと
- イレブンナイン(純度99.99999999%)のシリコンを用いており、非常に高い平坦度のウェーハに加工する事業



続いてプライムウェーハ事業についてご説明します。
 プライムウェーハとは、半導体の基板材料であるシリコンウェーハのことです。
 シリコンの純度はイレブンナイン(99.99999999パーセント)に達し、非常に高い平坦度のウェーハに加工します。そのため、高度な技術力が求められる事業となります。

事業内容 (4/5 当社のプライムウェーハ事業)



- 2019年、中国の非鉄金属分野で最大の国有研究機関である有研科技集团有限公司 (GRINM) と合併し、有研半導体材料有限公司※1 (GRITEK) を連結子会社とすることにより参入。中国山東省にフラッグシップ工場を竣工



※1 現:有研半導体材料股份有限公司

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 11

当社のプライムウェーハ事業の製造拠点は、中国の山東省徳州市にあります。2018年に、中国の国有研究機関である有研科技集团有限公司 (GRINM) と合併し、GRITEKを子会社化しました。プライムウェーハの製造には非常に高い技術力が必要となるため、GRINMグループの技術力や資金力などを鑑みたものです。

山東GRITEKでは、主に8インチのパワー半導体用のウェーハを量産しています。また、2020年には徳州市政府系ファンドとの合併事業としてSGRSを設立し、需要の高い12インチのプライムウェーハの量産と開発ラインを立ち上げました。

今後も事業成長のための設備投資を行うとともに、再生ウェーハ事業での販売網を活かして、シェア拡大を目指していきます。

- ・シリコンや石英の消耗部材の製造と、レーザーダイオードや半導体製造向けの検査装置の販売



半導体関連装置・部材等事業についてご説明します。当セグメントには2つの機能があります。

1つ目は製造・販売機能です。こちらは子会社である株式会社DG Technologiesの事業で、半導体製造装置用の消耗部品であるシリコンや石英のパーツを製造・販売しています。

DG Technologiesは、宮城県栗原市と茨城県神栖市の2拠点に工場があります。

2つ目は商社機能です。こちらはRS Technologiesと子会社の株式会社ユニオンエレクトロニクスソリューションの事業です。

こちらでは、シャープ製レーザーダイオードや日立製半導体製造向けの検査装置等の代理販売を行っています。

これらに加えて、半導体工場のライン入れ替えに伴う中古装置の一括買取入札、いわゆるバルクセールへの参加も行っていきます。

2023年12月期 決算概要

02

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 13

2023年12月期の決算概要をご説明いたします。

2023年12月期(累計) 決算概要



- 半導体市況全体の悪影響はあったものの、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は計画対比増収増益

(百万円)

	2022年12月期	2023年12月期 計画	2023年12月期	前期比	計画比
売上高	49,864	50,800	51,893	+4.1%	+2.2%
営業利益	13,018	13,100	11,894	△8.6%	△9.2%
営業利益率	26.1%	25.8%	22.9%	△3.2pt	△2.9pt
経常利益	15,500	14,300	14,921	△3.7%	+4.3%
経常利益率	31.0%	28.2%	28.8%	△2.2pt	+0.6pt
親会社株主に帰属する当期純利益	7,739	7,400	7,703	△0.5%	+4.1%
一株当たり当期純利益	299.29	286.18	292.76	△2.2%	+2.3%

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 14

2023年12月期の決算概要をご説明します。

売上高は518億9,300万円、営業利益は118億9,400万円、経常利益は149億2,100万円、親会社株主に帰属する当期純利益は77億300万円となりました。

半導体市況全体の悪影響はあったものの、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、計画対比で増収増益での着地となりました。

2023年12月期(累計) セグメント動向



- 再生ウェーハ事業は、顧客分散及びポートフォリオマネジメント、設備投資による増産効果により前年比増収増益
- プライムウェーハ事業は、半導体全体の市況悪化等により前年比減収減益
- 半導体関連装置・部材等事業は、販売力強化及び新規市場の取り込みにより、売上高が好調に推移

(百万円)

	再生ウェーハ事業		プライムウェーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
売上高	20,499	+13.9%	18,736	△17.7%	14,057	+24.8%	△1,399	—	51,893	4.1%
営業利益	8,114	+11.0%	3,742	△37.6%	882	△3.5%	△844	—	11,894	△8.6%
営業利益率	39.6%	△1.0pt	20.0%	△6.3pt	6.3%	△1.8pt	—	—	22.9%	△3.2pt

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 15

2023年12月期のセグメントごとの結果です。

再生ウェーハ事業は、設備投資を計画どおり実施し生産能力増強を図ったことで、売上高は前年比13.9パーセント増、営業利益は11パーセント増と伸長しました。

プライムウェーハ事業は、市況環境の悪化等により前年比で減収減益となりました。半導体関連装置・部材等事業は、販売力強化および新規市場の取り込みにより、売上高が好調に推移しました。

2023年12月期第4四半期(10-12月)決算概況



・第4四半期においては、半導体市況が悪化したことにより、全体的に低調であった。

(百万円)

	2022年12月期 第4四半期	2023年12月期 第4四半期	前年同期比	差額
売上高	12,231	12,423	+1.6%	+192
営業利益	3,239	2,317	△28.5%	△922
営業利益率	26.4%	18.7%		△7.7pt
経常利益	3,230	2,904	△10.1%	△326
経常利益率	26.4%	23.4%		△3.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,949	1,737	△10.9%	△212
一株当たり当期純利益	75.38円	65.94円	△12.4%	△9.36円

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 16

2023年12月期第4四半期の決算概況です。
売上高は前年同期比で微増の124億2,300万円となりました。

2023年第4四半期(10-12月)セグメント動向



- 再生ウェーハ事業は、顧客のコスト削減意識増加及び設備投資による増産効果により前年比増収増益
- プライムウェーハ事業は、市場環境の悪化などにより前年比減収減益
- 半導体関連装置・部材等事業は、販売力強化及び新規市場の取り込みにより、売上高が好調に推移

(百万円)

	再生ウェーハ事業		プライムウェーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
売上高	5,454	+8.9%	3,515	△29.7%	3,804	+33.8%	△350	—	12,423	+1.6%
営業利益	2,141	+2.9%	321	△73.0%	45	△83.4%	△189	—	2,318	△28.4%
営業利益率	39.3%	△2.2pt	9.1%	△14.7pt	1.2%	△8.3pt	—	—	18.7%	△7.7pt

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 17

第4四半期のセグメント動向です。再生ウェーハ事業は、売上高が54億5,400万円と好調に推移しました。

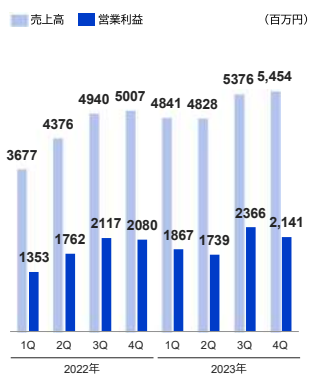
プライムウェーハ事業は、売上高が35億1,500万円と、市況環境の悪化により前年比で減収となっています。

2023年12月期 セグメント別動向 四半期実績グラフ

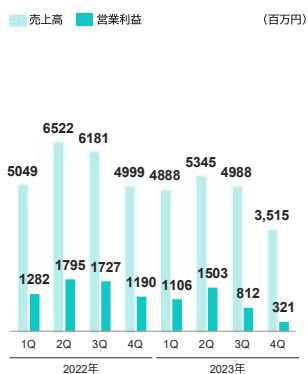


- 再生ウェーハ事業は、顧客のコスト削減意識増加及び設備投資による増産効果により前年比増収増益
- プライムウェーハ事業は、市況環境の悪化などにより前年比減収減益
- 半導体関連装置・部材等事業は、販売力強化及び新規市場の取り込みにより、売上が好調に推移

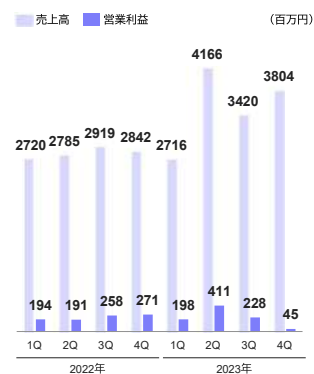
再生ウェーハ事業



プライムウェーハ事業



半導体関連装置・部材等事業



COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 18

2023年12月期と2022年12月期のセグメント別四半期実績グラフです。再生ウェーハ事業は、設備投資効果や再生ウェーハの需要拡大を背景として引き続き好調に推移し、高い営業利益率を維持しています。

プライムウェーハ事業は前年比で減収減益の着地となりました。2022年12月期の第2四半期・第3四半期は、部材の受注が集中する特需がありました。その後の2023年12月期第3四半期・第4四半期は、お客さまの在庫調整の兼ね合いもあり、受注が落ち着いた状況でした。また、プライムウェーハの出荷数は、ほぼ横ばいで推移しています。

半導体関連装置・部材等事業は、主にシャープ製レーザーダイオードの新規顧客の開拓等が増収につながりました。

貸借対照表及びキャッシュフロー



・純資産は、前年期末比140億円増の1,154億円(前年1,014億円)となった。

■ 連結貸借対照表

(百万円)

	2022年12月期	2023年12月期
流動資産	90,470	96,409
現金及び預金	67,939	70,758
受取手形及び売掛金	11,651	12,673
商品及び製品	3,833	6,507
固定資産	37,084	44,256
有形固定資産	31,285	35,326
無形固定資産	270	266
投資その他資産	5,529	8,663
資産合計	127,554	140,666
流動負債	17,622	18,265
支払手形及び買掛金	6,466	5,174
有利子負債	4,694	3,355
固定負債	8,458	6,973
長期借入金	3,514	2,092
負債合計	26,081	25,238
純資産	101,473	115,428
負債・純資産合計	127,554	140,666

■ キャッシュ・フロー

(百万円)

	2022年12月期	2023年12月期
営業活動による キャッシュ・フロー	15,316	13,857
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,729	△8,961
財務活動による キャッシュ・フロー	32,928	△4,801
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,412	2,805
現金及び 現金同等物の増減額	45,103	2,900
現金及び 現金同等物の期首残高	21,641	66,744
現金及び 現金同等物の期末残高	66,744	69,644

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 19

貸借対照表およびキャッシュフローです。
純資産は前年の1,014億円から約140億円増加し、1,154億円となりました。
現金は前期末から約28億円増の707億円となっています。

中期経営計画

03

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 20

中期経営計画をご説明いたします。

中期経営計画(2024-2026)の概要 (ベースプラン)



- ◆2024年上期は半導体市場の停滞感が強い一方、下期より回復基調に動くとみており売上高は2023年を上回る見通し
- ・再生ウェーハ事業は、国内、台湾、中国の3拠点で引き続き継続的な設備投資を実施し、生産能力増強を図る
- ・プライムウェーハ事業は、中国における8インチ及び12インチでのシェア拡大に向けた継続した設備投資を実施
- ・半導体関連装置・部材事業は、新市場開拓や新規顧客獲得に向けた営業活動を実施

ベースプラン*1

*1: 既存3事業(再生ウェーハ事業、プライムウェーハ事業、半導体装置関連・部材事業)における中期経営計画

(百万円)	2023年 12月期 (実績)	2024年 12月期計画	2025年 12月期計画	2026年 12月期計画
売上高	51,893	54,900	59,300	64,100
成長率		106%	108%	108%
営業利益	11,894	14,000	15,330	16,830
営業利益率	22.9%	25.5%	25.9%	26.3%
経常利益	14,921	15,400	16,730	18,230
経常利益率	28.8%	28.1%	28.2%	28.4%
当期純利益	7,703	7,600	8,200	8,800

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 21

中期経営計画ベースプランの概要です。各セグメントの施策についてご説明します。

再生ウェーハ事業は、国内、台湾、中国の3拠点で継続的な設備投資を実施し、生産能力増強を図ります。

プライムウェーハ事業は、中国における8インチおよび12インチでのシェア拡大に向け、継続した設備投資を実施します。

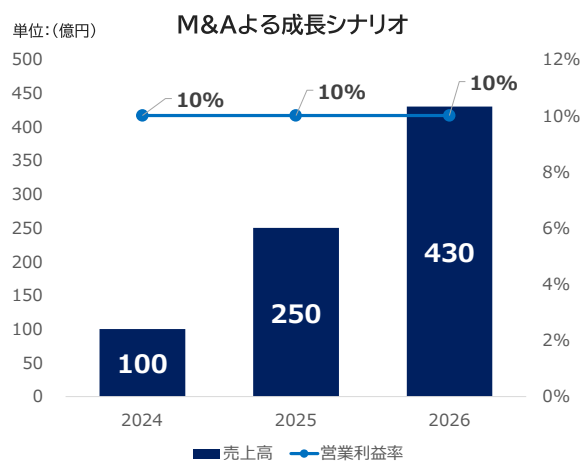
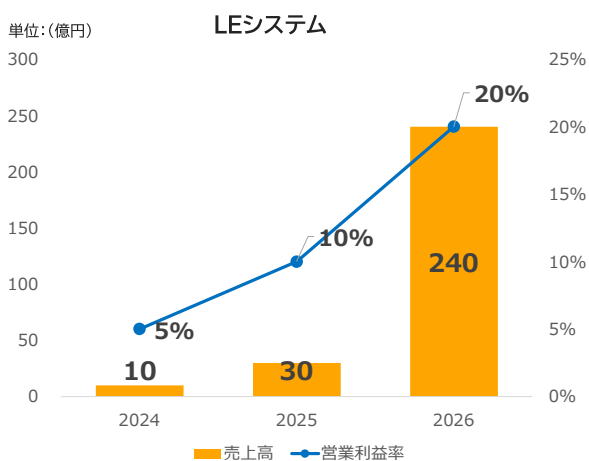
半導体関連装置・部材等事業は、新市場開拓や新規顧客獲得に向けた営業活動を実施する方針です。

これらの施策によって安定的な成長を目指し、中期経営計画最終年度の2026年12月期においては売上高641億円、当期純利益88億円を目指していきます。

中期経営計画(2024-2026)の概要 (アップサイドプラン-目標値) 1/2



- ◆前頁「ベースプラン」に加え、LEシステム及びM&A実施による成長を見込んだ「アップサイドプラン」も目標値として設定
- ・LEシステムは、バナジウムレドックスフロー電池最大市場である中国に進出。売上高240億円、営業利益率20%を目標設定
- ・M&Aを通して3年で約430億円規模の売上高を達成し、事業拡大を加速させる



COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 22

ベースプランに加え、LEシステムおよびM&A実施による成長を見込んだアップサイドプランも目標値として設定しました。

LEシステムは、バナジウムレドックスフロー電池の最大市場である中国への進出を目指し、3年後に売上高240億円、営業利益率20パーセントを目標に設定しました。

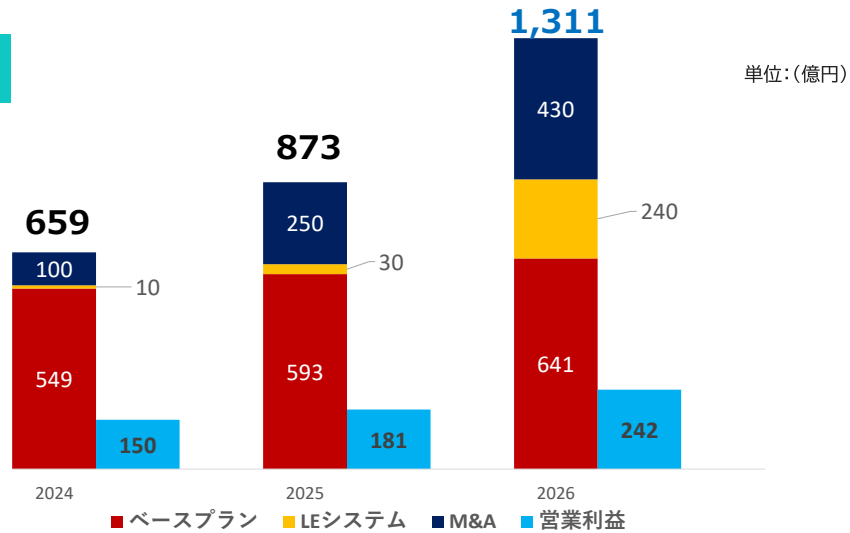
また、M&Aを通して、3年で約430億円規模の売上高増加を達成し、事業拡大を加速させていく計画としました。

中期経営計画(2024-2026)の概要 (アップサイドプラン-目標値) 2/2



- ・「アップサイドプラン(目標値)」として2026年までに売上高約1,300億円の目標を設定
- ・2024-2026の3年間で、LEシステムとM&Aによる規模拡大を推進

アップサイドプラン (目標値)



スライドの棒グラフは、赤色がベースプラン、黄色とネイビーがアップサイドプランの目標値を示しています。

2026年までに、合わせて売上高約1,300億円の目標を設定しています。

設備投資計画:再生ウェーハ事業



- 世界の半導体需要が拡大する中、日本・台湾での増産、及び、中国山東省において量産中
- 旺盛な需要に対応すべく、2026年までに月産89万枚超の生産能力を確立予定

日本 

総投資額

30億円

2024年度	2025年度	2026年度
2億円	13億円	15億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充及び微細化対応
- 2024~2026年:月産+5万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
31万枚	32万枚	34万枚	36万枚

台湾 

総投資額

60億円

2024年度	2025年度	2026年度
10億円	15億円	35億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充及び微細化対応
- 2024~2026年:月産+10万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
23万枚	26万枚	28万枚	33万枚

中国 

総投資額

61億円

2024年度	2025年度	2026年度
1億円	30億円	30億円

- 12インチ再生ウェーハ生産能力拡充
- 2024~2026年:月産+15万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
5万枚	5万枚	15万枚	20万枚

再生ウェーハ事業における設備投資計画についてご説明します。
2024年度から2026年度の3ヶ年で、日本では計30億円を投資し、2026年度までに月産5万枚を増産する予定です。

台湾では計60億円を投資し、2026年度までに月産10万枚を増産する予定です。
中国においては計61億円を投資し、2026年度までに月産15万枚を増産する予定です。

設備投資計画:プライムウェーハ事業

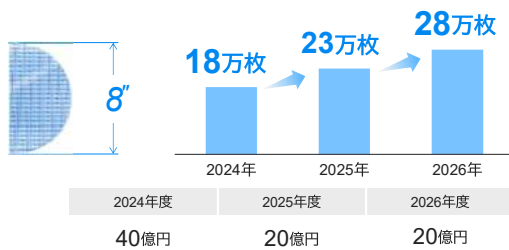


- 8インチプライムウェーハは、2024～2026年の間に月産18万枚から28万枚まで増産を予定
- 12インチプライムウェーハは、2024～2026年の間に月産6万枚から21万枚まで増産を予定

中国 8インチ

- 安定した量産体制の構築、生産効率の向上を目指す

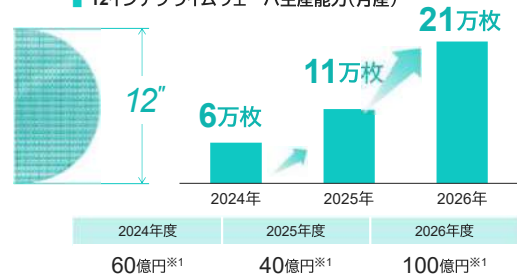
■ 8インチプライムウェーハ生産能力(月産)



中国 12インチ

- 12インチプライムウェーハの生産能力増強を実施

■ 12インチプライムウェーハ生産能力(月産)



^{※1} 12インチ事業は持分法適用会社からの投資となります。

プライムウェーハ事業における設備投資計画についてご説明します。
8インチプライムウェーハ事業への投資については、2024年度に40億円、2025年度と2026年度には各20億円の投資を予定しており、月産10万枚の増産を目指します。

12インチプライムウェーハ事業への投資についても、2024年度に60億円、2025年度に40億円、2026年度には100億円の投資を計画しており、月産15万枚の増産を目指しています。

なお、12インチプライムウェーハ事業は、持分法適用会社からの投資となります。

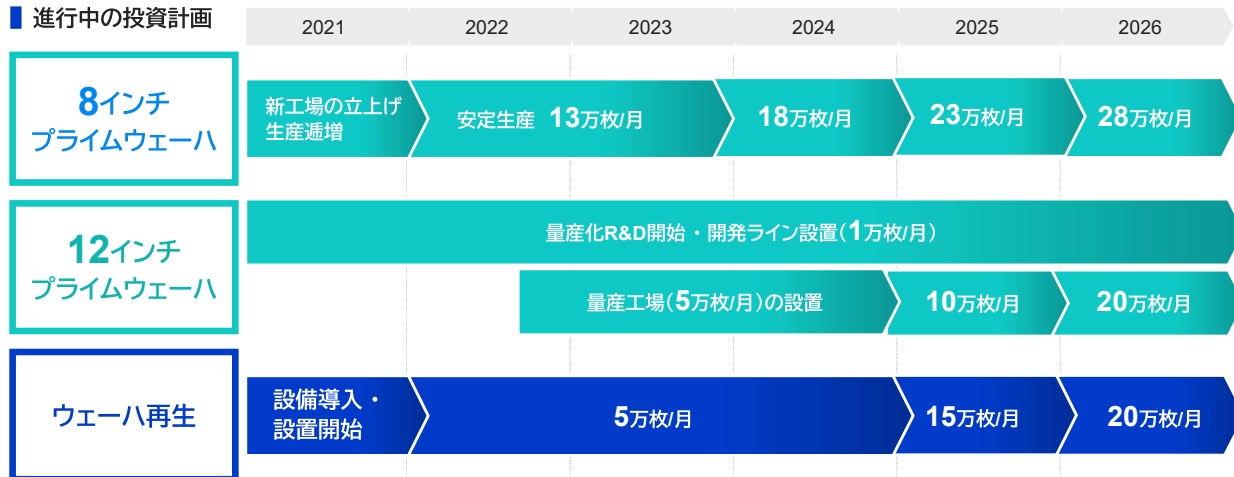
今後の投資については、いずれの事業も状況を見ながら、タイムリーかつ的確に判断していきたいと考えています。

中国投資計画(スケジュール)



- 8インチプライムウェーハは月産13万枚から18万枚への増産
- 12インチプライムウェーハは月産5万枚の量産ラインを設置、高品質化・安定生産を早期に目指す
- 再生ウェーハ事業は月産5万枚の量産を継続

■ 進行中の投資計画



COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 26

中国における設備投資については、計画どおりに進んでいます。
中国での再生ウェーハ事業については、2022年に開始された量産を継続し、2025年には月産15万枚、2026年には月産20万枚まで拡大することを目指しています。

再生ウェーハ事業の需要先: 12インチ半導体“新”工場

- 世界市場では、中欧米日等で12インチ半導体新工場が建設中
- 当社は、日本、台湾及び中国への設備投資により、新たな再生ウェーハ需要へ対応



再生ウェーハ事業の需要先である、12インチ半導体の工場新設予定についてです。現在公開されている情報だけで、日本に9ヶ所、海外に47ヶ所の新設予定があります。

新設工場からの再生ウェーハ需要にもしっかりと対応できるよう、計画的に設備投資を行っていきます。

地域戦略 ディカップリングに左右されない地域戦略

日本・北米・欧州

三本木工場(日本旗艦工場)が北米、欧州、日本等を中心にカバー



中国

現時点でプライムウェーハは中国国内を中心に販売



台湾

ファウンドリーの集積地である台湾地域内は台湾工場でカバー



COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 28

地域戦略についてです。
当社は、ディカップリングに左右されない地域戦略をとっています。

再生ウェーハの北米、欧州、日本を中心としたお客さまには、日本の三本木工場にて再生加工を承っており、ファウンドリーの集積地である台湾地域内については台湾工場でカバーしています。

プライムウェーハは、現時点では主に中国の工場で生産しており、販売先も中国国内が中心となっています。
そのため、仮に米中摩擦が深刻化した場合でも、当社事業およびお客さまへの影響は極めて軽微だと考えています。



新規事業

LEシステム



04

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 29

2023年12月より開始した再生可能エネルギー事業のLEシステムについてご説明いたします。

再生可能エネルギー事業に新規参入



- 2023年12月、株式会社LEシステム(当社の100%子会社)が旧LEシステムよりバナジウムレドックスフロー電池(VRFB)用の電解液事業を継承

■ 新会社の概要



社名	株式会社LEシステム
設立	2023年10月13日(事業承継日:2023年12月)
事業内容	バナジウムレドックスフロー電池の電解液製造
所在地	東京都品川区大井1-47-1NTビル (株式会社RS Technologies内)
製造拠点	福島県浪江町
資本金	30百万円
代表取締役	方 永義

- 2023年12月より、旧LEシステムの事業を全面的に承継
- 旧LEシステムの基幹技術は日本で生まれた技術であり、株式会社INCJ(官民ファンド)の出資を含む多くの支援を受けてきた

■ LEシステムの強み

- 01** 高品質電解液の量産プロセスを確立済み
- 02** 海外含む多数の電池メーカーとのグローバルな協業体制
- 03** 独自技術によって低コストでの製造を実現(保有特許10件以上)

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 30

2023年12月より開始した、再生可能エネルギー事業の新会社LEシステムについてご説明します。

LEシステムは、蓄電池に関する技術を有する会社です。バナジウムレドックスフロー電池という分野に属する蓄電池の技術で、当社はその基幹材料を製造しています。

基幹技術は日本で生まれた技術であり、経済産業大臣が指揮する官民ファンドである株式会社INCJの出資を含む、多くの支援を受けてきました。一方で、市場の立ち上がりの遅れなどから、さらなる支援が必要な状況になりました。

そこで当社に白羽の矢が立ち、技術市場を評価した結果、参入することにしました。

バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)とは



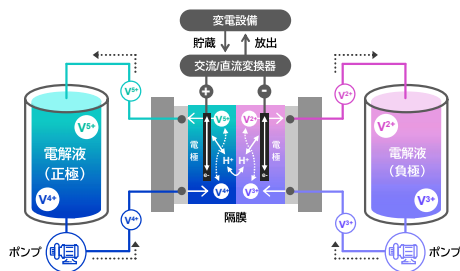
・VRFBは、バナジウム電解液を循環・化学反応させることで充電と放電を行う蓄電池。LEシステムでは、このバナジウム電解液を製造・供給している

主要用途

風力発電や太陽光発電等、大規模・大容量の定置式蓄電池としての活用

仕組み

他の蓄電池が電極の化学変化で充電と放電を行うのに対し、VRFBは電解液の化学変化(酸化還元)による充放電を実現



特徴

充電と放電回数に制限がなく劣化がないことから長期の安定稼働が可能であり、安全性も高く、再生エネルギーとの相性も良い

<p>高い安全性 不燃性電解液</p>	<p>拡張の自由度 充放電の時間を自由に設計可能</p>	<p>長寿命 充放電サイクルに制限がない</p>	<p>コストダウン 長期間運用がコスト面で有利に</p>	<p>非同期連携 再生エネルギーと相性が良い</p>
--------------------------------	---	-------------------------------------	---	---------------------------------------

VRFBは大容量の定置式蓄電池として高い安全性と安定供給が求められる風力・太陽光発電等に最適な特徴を有する

バナジウムレドックスフロー電池とは、バナジウム電解液を循環・化学反応させることで、充電と放電を行う蓄電池のことです。
この電解液の特徴は主に3つあります。

- 1つ目は、5年から7年で何割かの効率性が下がると言われているリチウム電池に比べ、10年から20年ほどほぼ劣化しないバナジウム電解液はエネルギー効率が良いということです。
- 2つ目は、発火性や熱を持つことがないため、安全性が高いということです。
- 3つ目は、複数電源の非同期連携が可能なことです。

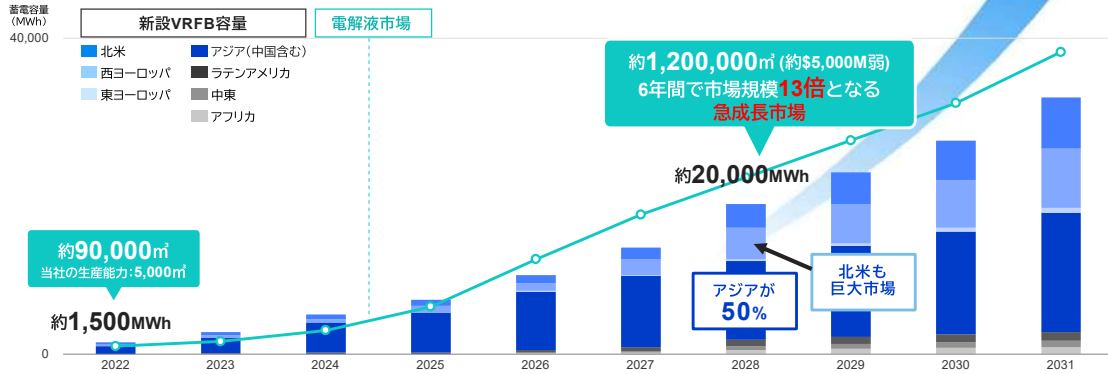
LEシステムでは、このバナジウム電解液を製造、供給しています。
主に、高い安全性と安全供給が求められる風力発電や太陽光発電など、大規模・大容量の定置式蓄電池として活用の用途があります。

バナジウムレドックスフロー電池 (VRFB) を取り巻く市場規模



- VRFB市場は、2028年には現在の10倍以上にまで拡大することが予想されている。
これに伴って電解液の需要も伸長していく見込み

■ 新設VRFB容量(世界・地域別)と電解液市場の予測



新LEシステムでは、当社の海外ネットワーク(特に中国を含むアジアでの強み)を活かし、
2028年までにグローバルでのトップシェア獲得を目指す

出典: Guidehouse Insights

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 32

バナジウムレドックスフロー電池の市場動向です。
市場規模は、2028年には現在の10倍以上まで拡大することが予想されています。

グラフのとおり、特に北米および中国を含むアジア圏での需要が先行して拡大すると予想されているため、
当社の海外ネットワークを活かし、中国を皮切りにグローバルでのシェア獲得を目指していきます。

LEシステム取り込みの意図と今後の成長戦略



- 2023年10月に設立したLEシステムは、バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)用電解液を製造
- 2024年より事業規模拡大に向け、グローバルに営業活動を本格化

LEシステムグループ取り込みの意図

- 「再生」は、当社の事業成長において創業期からのキーワードとしている
- LEシステムは、当社が掲げる「再生」に合致したビジネスモデルであり今後の成長が期待できる事業である
 - 1) 再生可能エネルギー分野で急成長が見込める
 - 2) 石油プラント等で発生する残渣を再生利用してバナジウム電解液を製造する技術を保有
 - 3) 電解液自体もリサイクル可能

今後の成長戦略

- 中国は、国策としてリチウムイオン電池に次ぐ柱としてVRFBを掲げており、今後中国はその最大の市場となる
- LEシステムの独自技術によるコスト競争力と、中国における当社の事業基盤を活用し、中国市場におけるVRFB市場トップシェアを目指す
- 今後も日本を研究開発拠点とし、投資を継続
- 日本で大容量定置式蓄電池のニーズが高まってきた際には、国内で量産可能な体制を構築する

COPYRIGHT© RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED 33

LEシステム取り込みの意図と、今後の成長戦略についてです。「再生」は、当社の事業成長において、創業期からのキーワードとしています。LEシステムの再生可能エネルギー事業は、「再生」というキーワードと合致し、今後の事業成長が期待できると考えました。

今後も日本を研究開発拠点としながら、グローバルでは中国における当社の事業基盤を活かしたシェア獲得を目指していきます。

以上で、私からの説明を終了します。ご清聴いただき、ありがとうございました。